

第32回非開削技術研究発表会に参加して



合馬 千華

GOUMA Chika

アイレック技建(株)
非開削推進事業本部
第一技術部

「第32回非開削技術研究発表会」が、10月27日に港区の品川シーズンテラスカンファレンスで開催されました。私は今回初めて参加し、このような執筆の機会をいただきましたので、その時の模様を簡単にではありますがお伝えしたいと思います。

本年度の発表会も、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止対策として、Webを併用した形式で開催されました。参加人数は、会場参加が41名、Web参加が46名の合計87名でした。会場参加人数を会場収容可能人数1/3程度に制限し、会場入場時には検温や手指の消毒を行うなど、感染症拡大防止に配慮しての開催となっていました。

コロナ禍での開催ということで関係者、事務局の皆様様の準備も例年より大変だったかと拝察いたします。会場内では新型コロナウイルスに配慮し、WEBでは通信の不安定さに対応し、気を遣わなければならない場面も多かったかと思いますが、スムーズな運営をされていて、入念な準備のもと開催していただいていることを感じました。

今回の発表会は『調査・技術』『推進技術』『地中掘削技術』『修繕技術』の4つのセッション、合計13件の発表が行われました。

(一社)日本非開削技術協会の森田会長の開会挨拶に



会場の様子

より始まりました。挨拶のなかで「技術開発には高いアンテナを持ち、情報を発信・共有することが重要。今回の発表会でアンテナに引っかかるものがあれば」という趣旨のお話がありました。「高いアンテナを持つ」ということは、技術開発だけでなく日常取組む業務においても大切なことだと思い、個人的にとっても胸に残る言葉でした。

発表内容は、セッションのテーマ毎に新しい技術開発や取り組み、工法の研究、また、施工事例やトラブル事例など多岐にわたり、貴重な発表を聞くことができました。AIなどを活用して技術者の熟練を必要としない初心者でも客観的に判断できる技術の開発だったり、ドローンなど他分野の技術の応用だったり、人材不足や、技術員の衛生・安全面の確保といった課題に対して、画期的な改善も期待できるような発表が数多くありました。そのなかで、非開削技術の進歩へ対する関心の高さ、使命感や熱い想いを感じました。

閉会にあたり、(一社)日本非開削技術協会の宮武技術委員長より、発表の総括と非開削技術のさらなる発展に向けた挨拶があり、盛況のうちに発表会は終了しました。

例年では発表会の後に意見交換会があったようですが、今回も前回同様、新型コロナウイルスの影響で意見交換会の開催はありませんでした。しかし、各セッションの最後に設けられた質疑応答では、時間が足りなくなるほど活発なディスカッションが行われており、十分意見交換会の代わりになったのではないかと思います。

今号では、この「第32回非開削技術研究発表会」にて発表された論文のアブストラクトが紹介されるということです。今回出席できなかった方々にはご一読頂きたいのはもちろんのこと、皆様アンテナに引っかかり次回開催時の発表や参加への関心につながっていただければ幸いです。